

社会人対象講座 キャリアアッププログラム

Basic subject Career Up Program

広島経済大学キャリアアップ・プログラム・メールマガジン 第116号(2014.05.15 発行)

なお、本メールが不要な方は career-up@hue.ac.jp までご連絡ください。

【目次】

- ・巻頭言 広島経済大学 経済学部
経営学科 教授 岡田 斎
- ・オープンキャンパスの日程のお知らせ
- ・経大見聞録
- ・進化するキャリアアップ・プログラムのホームページ
- ・2 学期カルチャー講座のご案内 『乱世を生きた人々』
- ・読者の皆様からのエッセーの投稿をお待ちしております
- ・CP/CS に関する、ご質問やお問い合わせは

■巻頭言

広島経済大学 経済学部

経営学科 教授

岡田 斎

1 学期 CP 講師『「CSR:企業の社会的責任」入門』

過去の名経営者に想う

先日テレビを見ていると、吸引力が落ちない掃除機、羽根のない扇風機など、革新的な製品を生み出すことで有名な英国のダイソンの社長が、「幼いころホンダとソニーが私のヒーローだった。ソニーの盛田昭夫は優れた技術者で革新的な商品を生み出した。会ったことはないが師と仰ぐ人物だ。」と発言していた(2014年4月9日、ワールドビジネスサテライト)。また、日経ビジネス2014年4月28日・5月5日合併号では、「私から見れば、かつてソニーやホンダは輝いていました。創業者の盛田(昭夫)さんや本田(宗一郎)さんは挑戦する気持ちを持っていたように思います。」と発言している(P112)。これらを聞き、読んだ後、過去形で書かれていることを残念に思うとともに、かつての名経営者であれば現在の厳しい経営環境下でどのような経営のかじ取りをするのであろうかとの思いが頭をよぎった。

戦前から戦後にかけて活躍した出光佐三(1885年生まれ)、松下幸之助(1894年生まれ)、本田宗一郎(1906年生まれ)、井深大(1908年生まれ)、盛田昭夫(1921年生まれ)などの名前を思い起こしながら、想像をめぐらした。言うまでも

ないことだが、歴史に「もしも〜であれば」は禁句である。上記の経営者が活躍した時代は、戦前から戦後に渡るが、日本経済がどん底から高度成長期へと成長発展した時期に重なる。彼らは高度経済成長という時代の波にうまく乗り、その結果、事業も拡大した、今の停滞した厳しい経済環境下と根本的に状況が違ふという意見もあるかもしれない。しかし、本当にそうであろうか。

松下幸之助のパナソニックは回復しつつあるように見える。企業の業績が落ち込んだ時に設備や在庫の減損処理を行い、次期以降にV字回復を演出する安易な経営手法(?)がとられていないかどうか分析する必要があるが、この回復が本物なのか、この評価はもう2,3年待つ必要があるだろう。最近の経営を見ていると、松下幸之助の松下イズムが失われたかのように見える。一方、本田宗一郎のホンダは好調のようである。グローバル展開が成功し、本田宗一郎が育てた後継者やそれに続く経営者によって、好循環が生まれているようである。しかし、井深大と盛田昭夫のソニーは、いまだ復調の兆しが見当たらないように思える。ソニーの輝かしい時代を知る者にとって、現在のソニーの姿を見るには忍びない。キラキラ輝いた製品を次々と世に出したソニーをもう一度見るのであろうか。

経営者が行うマネジメントによって企業の業績が大きく左右されることは言を俟たない。不確実性の高い環境下で行う経営者の意思決定が企業の命運を左右する。その意思決定の質をどのように高めるか、経営者の資質が問われる。名経営者と呼ばれる人と、企業の業績悪化をもたらす凡庸な経営者の違いは何か、経営学の重要な研究領域である。さまざまな知見が得られているが、私はトップマネジメントに求められるのは究極的には「人の質」であると思う。「人の質」とは、人間的な魅力、倫理を含む哲学や歴史への深い造詣などによって生み出されるものである。「人の質」というものは学校で学べるとは限らない。先にあげた経営者の松下幸之助、本田宗一郎は初等教育を受けたのち直ちに丁稚奉公を経験している。二人とも後に専門学校や夜間学校に通っているが、立派ないわゆる学歴はない。彼らは事業を行っていく過程で大事なことを経験し学んできた。そして二人のその後続く後継者にも立派な学歴を持たない人も多いが、うまく育て上げ、事業を引き継いできたのである。しかし、ある時期を境にして、パナソニックやソニーでは創業者のDNAの引継ぎや後継者の育成がうまくいかなかったのかもしれない。

松下幸之助、井深大や盛田昭夫が、現在のパナソニックやソニーを見て何を思うのか聞いてみたいものである。

■オープンキャンパスの日程のお知らせ

【日 程】

- 第1回目 6月15日日曜日
- 第2回目 7月26日土曜日
- 第3回目 7月27日日曜日
- 第4回目 8月24日日曜日
- 第5回目 11月2日日曜日 5日間です。

下記のURLをクリックされますと、当日おもてなしをするオープンキャンパス実行委員の学生の意気込みが紹介されています。まずご覧ください。

オープンキャンパス トップページ: http://www.hue.ac.jp/exam/open_campus/index.html

ところで、オープンキャンパスはただの大学(本学)のPRではありません。

実は、入学されるお子様が本学でどのような学生生活を送るのか、学業はもちろんのことですが、大学生としての生活面等での不安の解消、また大学選別のミスマッチを防ぐために開かれている行事とさせていただきます。

大切なお子様が本学へ入学して良かったと思える4年間にするための行事なのです。

またお子様だけが参加するのか、親子連れで行っても良いのかという疑問をお持ちの方は、平成25年度に行ったオープンキャンパスの模様をご覧ください。保護者対象説明会等もごさいますので、お子様と一緒にご参加をお待ちしております。

平成25年度6月オープンキャンパス URL: http://www.hue.ac.jp/exam/open_campus/20120616op.html

平成25年度7月オープンキャンパス URL: http://www.hue.ac.jp/exam/open_campus/201307oc.html

【無料送迎バス】は近日公開予定ですので、しばらくお待ちください。

■経大見聞録

本学のHPに掲載してある記事をご紹介します。生き生きした明るい学生の表情がうかがえます。URLをクリックして、本学の学生たちの様子をご覧くださいいただければと思います。

お仕事等の気分転換、コーヒブレイクにご覧いただけましたら幸甚です。

【4/26~27】一学一山運動オリエンテーションセミナーを開催しました

<http://www.hue.ac.jp/tagblocks/koudoukan/news/topics/0000007742.html>

■進化するキャリアアップ・プログラムのホームページ

今更ながらと思われる方も多いと思いますが、キャリアアップ・プログラムホームページをご紹介します。と言いますのは、以前ご覧になられた方でも、今キャリアアップ・プログラムのホームページをご覧になりますと、進化していることが窺えます。ちょっとCPホームページの探検に出かけてみませんか？

まず、【トップページ】 <http://www.hue.ac.jp/lecture/careerup/index.html> を開きますと、今年度のチラシがご覧いただけます。残念ながらデザインは昨年とほぼ同じですが、一応キャリアアップ・プログラムのイメージを作りつつあるデザインです。

次に私自身驚くことがあります。

【受講者の声】 <http://www.hue.ac.jp/lecture/careerup/voice2013.html> と

【CP 通信】 http://www.hue.ac.jp/lecture/careerup/cp_magazine.html のタブをクリックしてみてください。

【受講者の声】は、以前よりも知りたい情報にすぐアクセスできるようになりました。変更点は次のとおりです。

①学期毎のタブの追加、②講座名、講師名、受講動機、受講満足度毎の色分け、③[ページの先頭へ戻る]のタブの追

加です。さらに、昨年度開講した講座は 20 講座を学期のタブをクリックするとすぐにご覧いただきたい講座の受講者の声が出てきます。

次に【CP 通信】をクリックしてみてください。最近の 5 回分の CP 通信がすぐにご覧いただけます。

また、【バックナンバーはこちらから】のタブをクリックすると、ナント！2009 年創刊号(第 1 号)からすべて(第 115 号)がご覧いただけるのです。

エッセーを寄稿頂いた方は、いつでもご覧いただけるようになっています。

この CP ホームページを更新してくれている Okiebisu さんに改めて感謝感激しております。この場をお借りするのも僭越ですが、“Okiebisu さんありがとう！！”

■2 学期カルチャー講座(CS)のご案内

少し気が早いかもしれませんが、2 学期のカルチャー講座のご案内をいたします。

現在、NHK 大河ドラマで放映されている『軍師官兵衛』を観ておられる方も沢山いらっしゃるかと思います。この戦国時代に生き抜いた人々を焦点に当てた講座が 2 学期のカルチャー講座です。

歴史のお好きな方や、講師の長谷川先生からの受講者へのメッセージにありますように、乱世を生きた人々の息吹を感じる時間にしましょう！

お申込みは <http://www.hue.ac.jp/lecture/culture/index.html> から宜しくお願いします。

【講義日】10/22,10/29,11/5,11/12,11/19,11/26 毎週水曜日 計 6 回講義 受講料 5,000 円

※締め切りは 9 月 18 日木曜日ですが、定員 20 名になり次第募集は打ち切りますのでご了承ください。

担当者名	長谷川 泰志 (教養教育部 教授)	
科目名	乱世を生きた人々	
副題	～戦国軍記の群像～	
全体の授業内容	本講座では、戦国乱世を生きた人々の物語が、いつ、どのように作られたのか、そしてどのように継承されてきたのかを探っていきます。その際、記録者、外交僧、ブレーン、商人、芸能者を切り口として、歴史資料と文学資料を比較しながら読者が望んだ「物語」とは何かを考えていきます。	
授業内容	第 1 回 10/22	戦国の記録者たち (太田牛一、大村由己、小瀬甫庵)
	第 2 回 10/29	戦国の外交僧 (安国寺惠瓊)
	第 3 回 11/5	戦国大名のブレーンたち (太田道灌、黒田官兵衛、竹中半兵衛、山本勘介)
	第 4 回 11/12	戦国時代の商人たち (角倉了以、今井宗久、本阿弥光悦)
	第 5 回 11/19	戦国の芸能者たち (世阿弥、出雲阿国、古田織部、石川五右衛門)

第6回 11/26	毛利氏と軍記(桂峯圓覚書、老翁物語、陰徳記、陰徳太平記、新裁軍記)
授業の進め方	手紙や日記等の歴史資料と、戦国軍記等の文学資料の両方を使って、物語が作られていく過程をわかりやすく解き明かしていきます。
教材費などの追加負担	教材の負担はありません。
受講者へのメッセージ	乱世を生きた人々の息吹を感じる時間にしましょう！
講師紹介 (自己紹介)	1958年広島市生まれ。慶應義塾大学大学院文学研究科博士課程満期退学。1993年より広島経済大学勤務(2002年より教授)。専門は『太閤記』、『信長記』等の軍記文学。共著書に『信長公記を読む』(吉川弘文館、2009年)、『承久記・後期軍記の世界』(汲古書院、1999年)、論文に「軍記の中の安国寺恵瓊」(「鯉城往来」3号、2000年)、「甫庵『太閤記』諸版の成立—正保三年版補入考—」(「国語と国文学」第68巻第1号、1991)など。

■読者の皆様からのエッセーの投稿をお待ちしております

皆様からのエッセーを募集しています。日常の出来事、つぶやき何でも構いません。また匿名やペンネームで結構です。ご投稿をお願いいたします。(個人情報の取り扱いは十分配慮いたします)

【エッセーご寄稿頂ける方は】

どなたでも結構です。ご寄稿頂ける方は career-up@hue.ac.jp または 082-871-9345 までご連絡ください。掲載の日程をご連絡いたします。

■キャリアアップ・プログラムに関する、ご質問やお問い合わせは下記の連絡先へ、ご遠慮なくご連絡ください。

731-0192

広島市安佐南区祇園五丁目 37-1

広島経済大学

教育・学習支援センター 教育支援課

お問い合わせは電話番号(082)871-9345 または E-mail career-up@hue.ac.jp までどうぞ。

HUE 広島経済大学
CAREER UP PROGRAM